

カナダ 穀物

カナダ小麦局ニュースレター

2006年第2号

CWBとCOFCO共同発表 北京に技術センターを開設

CWBおよび中国穀物油糧食料輸入輸出公社 (COFCO) は、中国の製粉および食品加工産業を支援するための研修・技術センター開設への出資計画を最近発表しました。

同センターは北京に開設され、2007年までに完成する予定です。

2005年12月の北京訪問中に同センター開設を発表したエイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner) CWB社長兼最高経営責任者は、「高い経済成長と高品質の小麦食品への需要の急増により、中国は西部カナダ産小麦にとって更に重要な市場となりつつあります」と述べています。

「この技術センターは中国の小麦加工業者に品質の高いカナダ産製品を最大限に利用していただくために必要な情報を提供するものです。」

COFCOは中国の小麦購入機関です。COFCO社長劉福春 (Liu Fuchun) 氏は、CWB中国技術センターはCOFCOとCWBの長年にわたる関係が発展したものだと言っています。

「当社とCWBとは長年にわたって取引を続けてきました」と劉氏は述べます。「CWB中国技術センターはその長い良好な関係から自然発生的に計画ができあがったものです。」

CWBとCOFCOの関係は40年以上にも及んでいますが、過去二年間、中国は西部カナダ産小麦の最大の輸入国でした。

CWBがセンター開設に100万ドルを提供し、CWBとCOFCOが共同で運営費を負担します。

同センター施設で、CWBの顧客を対象に研修、教育セミナー、技術交換および技術支援が行われます。

カナダ国際穀物研究所 (CIGI) はカナダのウィニペグ州にあり、非営利の市場開発機関としてその名がよく知られています。当研究所はCWBの顧客に技術プログラムと研修セミナーを提供しており、中国の顧客を対象とした各種プログラムや活動の開発に協力し、中国技術センター開設を支援することになっています。■

「この技術センターは中国の小麦加工業者に品質の高いカナダ産製品を最大限に利用していただくために必要な情報を提供するものです。」



良いアイデア



お酒よ脇へ寄って - 大麦焼酎の座る 場所を作ってあげよう

焼酎は大麦、米、蕎麦またはサツマイモから作られる上質な蒸留酒です。大麦焼酎は現在急速に人気が高まっており、販売量で伝統的な日本酒を追い越しています。

日本酒は醸造酒ですが、焼酎はウォッカと同じように蒸留して作られるお酒です。焼酎は「オンザロック」か、水割りまたはお湯割りで飲まれています。日本で作られる焼酎のほとんどはアルコール度数25度ですが、35度のものや、種類によっては40度のものさえあります。

日本で生産される焼酎の種類は3,000を超え、大都市の洒落たレストランでは、顧客獲得のツールとして「焼酎メニュー」を置いています。

CWB創立70周年を 中国で祝う

CWBは2005年7月5日に創立70周年を迎えました。創立以来70年間に、CWBは西部カナダの農業生産者の販売機関として、10億トン以上の穀物を販売しました。

CWB北京事務所は2005年12月にこの一つの節目となる70周年を祝う式典を開催しました。エイドリアン・ミーズナー CWB社長兼最高経営責任者を含むCWB職員がこの祝典に参加するために中国に赴きました。祝典では盛大な晩餐会が開催され、参加者はCWBの歴史を写した写真展を鑑賞しました。

式典においてエイドリアン・ミーズナー CWB社長兼最高経営責任者は次のようにご挨拶しました：

ご出席の皆様。今夜、私たちは二つの特別な記念日をお祝いしております。カナダ小麦局創立70周年と中国とカナダの国交樹立35周年です。

この式典はカナダ小麦局の価値あるお客様である皆様に敬意を表するとともに、いかに私どもが皆様との関係を重視し、皆様のご要望に沿うよう努力しているかをお伝えするまたとない機会です。

中国とカナダの国交は35年前の1970年に樹立されましたが、カナダ小麦局と中国の関係は更に遡って1960年に始まりました。その年、カナダには大量の穀物があり、一方中国は3年越しの飢饉に見舞われていました。しかし当時中国は、米国による対中国輸出禁止の状況に置かれていました。カナダ政府はこの禁輸措置にもかかわらず、ここ北京に使節を派遣し、カナダに販売する穀物があることを伝えました。中国代表団は早速CWBと会見し交渉が開始されました。1961年、中国とカナダの間に二つの販売契約が結ばれ、約100万トンのプレーリー産穀物が中国に輸出されました。そしてそのすぐ後、最初の長期小麦貿易協定が締結されました。

こうして、CWBと中国の長期間続くことになる関係が樹立したのです。



以来、CWBは皆様の国に1億2,000万トンを超えるカナダ産穀物を販売してまいりました。私どもCWBは穀物一粒一粒につき、皆様に供給できる機会のあることに感謝しております。

今年、CWBは記念すべき年を祝いました。2005年7月5日、良質のカナダ産穀物を皆様を始めとするお客様方に農業生産者を代表して販売する機関として、CWBは創立70周年を迎えました。1935年創立以来、CWBは世界70カ国以上に10億トンを超える穀物を販売しました。当CWBがこのような長寿を保ってこられたのは、カナダの農業生産者、CWB職員、そしてお客様という三つのグループに支えられてきたおかげだと信じております。

70年にわたって、西部カナダの生産者は世界で最も品質の高い穀物を生産するために努力してまいりました。CWBの熱意あふれる優秀な職員も顧客のニーズにしっかり応えCWBの業績達成に重要な役割を果たしてまいりました。

また、私どもの成功と歴史は顧客である皆様に負うものでもあります。私どもは皆様とのこの関係を非常に重要なものと捉えております。COFCOおよびビール大麦を購入してくださるお客様とは本当に長いお付き合いをいただいております。本日のこの席によく知った方々のお顔をたくさん見ることができ、とてもうれしく存じます。

私は、お客様とよい関係を築くことができるかどうかは、サービスによって決まると考えますが、CWBは常に当社のお客様に最高のサービスを提供していることを誇りにしております。



サービスとはお客様が必要とする質と量の穀物を供給すること、お買い求めになる穀物を最大限に利用するための技術的な情報を提供することを意味します。

CWBの強みは、一年を通して一貫し

た品質の穀物をお客様に提供することができるということです。

当社の市場開発の焦点は、皆様が今後何を必要としているかを知り、カナダの育種業者と協力し、皆様の特定の需要に応えるため、優れた性能を備えた小麦や大麦の新品種を開発することに置かれています。

北京にCWBマーケティング事務所を設置していることは、CWBがいかに中国との通商を重視しているかを示すものですが、このCWB北京事務所は昨年秋、開設10周年を祝いました。

何周年記念というのは、主に過去の歴史に焦点を当てたものです。私たち両国間に長く続いた親密な関係を考えますと、10周年は確かに祝うだけの価値があります。しかし、何周

年記念というものは、これまでのことに注目するだけのものではないと思います。それは、現在の状況と将来のために必要な計画をよく考える良い機会でもあるのです。

CWBは未来に目を向け、皆様のご期待に背くことなく、時代と共に移り変わるご要望に常にご満足いただけるよう応えてまいります。品質、均一性およびお客様へのサービスが当社の業務の基盤であることはこれからも変わることはありません。

私どもは70年という歴史に誇りを持ち、未来に向けてさらに前進しようとしております。本日は、皆様のご出席をいただき共にCWB創立70周年を祝うことができ、大変うれしく心よりお礼申し上げます。■

日本 穀物業界パーティ



2005年12月、CWB東京事務所は毎年恒例の穀物業界パーティを開催しました。年に一度開催されるこのパーティは30年以上続いている恒例の行事で、長年CWBから穀物を購入されている日本のお客様への感謝を表すよい機会となっています。今年は特にCWB創立70周年を記念したものとなりました。100名以上の方々が出席され、総合食料局次長内藤邦男氏が日本政府を代表してCWB 70周年への祝辞を述べられ、日本製粉協会会長堀川征孝氏が乾杯の音頭をとられました。日本製粉協会は同日当パーティに先立ち、CWB職員を招待し70周年記念昼食会を開催してくださいました。

今年度のパーティは、東京の虎ノ門パストラルで開催されました。■

マーケティング責任者退職

CWBマーケティング担当副社長ビル・スパフォード (Bill Spafford) が退職することとなりました。

1970年に商品スペシャリストとして採用され、その献身的な勤務は35年間に及びました。入社2年で昇格され、1989年営業部長に任命されてから僅か10年後に副社長に就任しました。

CWB入社以来、数多くの取引国を訪問し、穀物業界に関する専門的な知識をバイヤーに提供してきました。

CWB職員一同、スパフォード氏が退職後お幸せな第二の人生を築かれることを祈っております。■



職員 動向



日本製粉株式会社の堀川征孝氏と握手するCWB社長兼最高経営責任者エイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner)。堀川征孝氏は現在日本製粉協会会長でもあり、CWB創立70周年記念昼食会を開催し、美しい日本の壺をCWBに贈られた。



2005年11月10日、CWB北京事務所の石海光 (Haiguang Shi) ジェネラルマネージャーが、カナダ農務農産食品省次官補アンドルー・マーズランド氏と会見。



2005年10月、日本製粉協会のメンバーとCWB東京事務所のデビッド・岩浅 (David Iwaasa) ジェネラルマネージャーは西部カナダへの旅行中、サスカチュワン州クライマックス市にあるレス・マイシング農場を訪問。



日本製粉協会のメンバーはクライマックス市のサスカチュワン・コミュニティ会館で西部カナダの農業生産者と会合し、品質要求事項に関する意見を交換した。製粉業者は「プレーリーで栽培される高タンパク質のカナダ・ウェスタン・レッド・スプリング小麦は品質が均一で、CWBによる供給も安定しており、日本のオートメーション工場では品質の高い小麦粉を一貫して生産することができることを高く評価している」と語った。

『カナダ穀物』は、カナダ小麦局 (CWB) 発行の出版物です。『カナダ穀物』は、カナダの穀物販売制度や、CWBの動向、その他カナダ西部産小麦・大麦の販売に関する情報を、アジア太平洋地域の穀物業界パートナーにお知らせしています。

読者からの質問または意見は下記までお送りください：

Linda Deger, 編集担当, The Canadian Wheat Board, P.O. Box 816 Station Main, Winnipeg, Manitoba, Canada, R3C 2P5
電話：(204) 983-8620, ファックス：(204) 983-4678, linda_deger@cwbc.ca